

指定校番号	29046	学級活動		生徒会活動	学校行事	○	中学校用
-------	-------	------	--	-------	------	---	------

## 平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第三中学校	校長	日名貞 秋典	生徒指導主事	西村 直朗
-----	-----------	----	--------	--------	-------

**取組事例名 『運動会』****取組のねらい『キーワード：集団での適応力の育成』**

縦割りで団を結成し、全員の協力と団結で企画・運営をしていく中で、公正に行動し、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たすなど、社会生活に必要な態度を養う。

**身に付させたい資質・能力**

課題発見・解決力、チャレンジ精神

**取組の具体的内容『キーワード：上級生から下級生への伝統の継承』**

本校では、縦割り集団で3年生（特に応援団）を中心に運動会を企画・運営している。毎年、「3年生になったら応援団に入り、みんなをリードしたい」と言って意気込んでいる3年生が多くいる。その位、良い伝統となっている。

本年度も下級生への指導を上級生に任せ、全校生徒による校歌斉唱の練習や応援演技の練習を実施した。

また、各団の応援演技の振付を考えたり、練習の進捗状況を見て練習計画を再考したりするなど、生徒主導で取り組ませた。



<各団の結団式の様子>

**取組の課題・創意工夫『キーワード：事前の取組を仕掛ける』**

本校では、運動会を生徒のリーダーシップのもと主体的に取り組むことが伝統となっている。2学期開催の運動会に向け、各学年から応援団（リーダー）の選出を1学期後半にさせ、夏休みを利用し、3年生の応援団に対し、下級生への指導方法を体育科の教員で指導した。夏休み後は、3年生の応援団が1、2年生の応援団を指導し、応援団と3年生全員で役割分担し、全体の指導を行った。

本校の課題は、縦割りの取組が「運動会だけの取組になっている」ことである。この取組を運動会だけでなく、その他の特別活動等につなげていかなければならない。



<各団応援演技の指導>

### 取組の成果（効果）『キーワード：集団の中における自身の役割の自覚』

生徒主導による運動会の運営は、3年生のリーダーとしての自覚を自然と促すものであった。集団の中での自身の役割を自覚させ、指導する者として何を意識しなければならないかを考えさせることができた。自身が過去に3年生から教わった時の事を思い出し、どう表現したら思いが伝わるのかを必死で考えている様子が見られた。

右下の写真は、解団式の際に2年生から3年生に対して、運動会での感謝の思いを伝えるために、エールを送っている場面である。教員の指示で、2年生に意図的に仕組んでいる面もあるが、2年生には“感謝の思い”の伝え方を学ばせ、これを見た1年生には、後輩としてどう在るべきなのかを“感じてほしい”という教員側の思いがある。



〈解団式での様子〉

### 今後の展開『キーワード：あらゆる活動につなげていく』

本校の弱みは、生徒が熱しやすく冷めやすいところにある。学校行事では、様々なリーダーを中心に活発に取り組むことができる。しかし、リーダーを務めていた生徒が、普段の生活に戻ると丁寧に授業に取り組めない実態がある。学校行事を通して学んだ、“仲間を大切に思いやること”を普段の生活の中でも意識し実践できる生徒の育成につなげていきたい。

### 他校へのアドバイス『キーワード：取組方針を全教職員で共有する』

特別活動を通して生徒に“何を学ばせるのか”を全教職員で共有し、意図的に“取組を仕掛ける”ことが必要である。